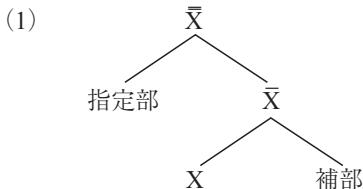


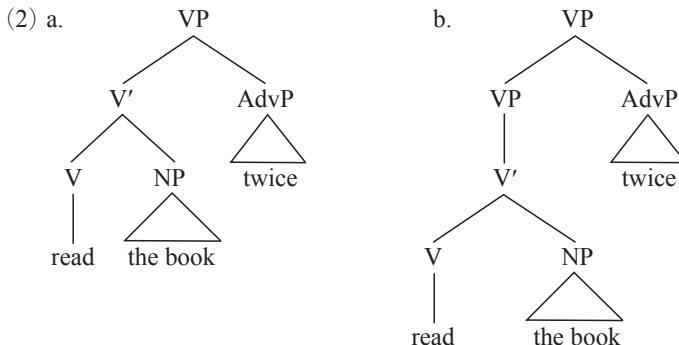
26 Xバー理論

Xバー理論 (X-bar theory) とはChomsky (1970) によって提案された理論であり、D構造での句構造 (phrase structure) はXバー式型 (X-bar schema) と呼ばれる(1)の構造を持つという仮説である。



\bar{X} は X^{\max} や XP とも表記され、最大投射 (maximal projection) と呼ばれる。 \bar{X}' は中間投射 (intermediate projection) と呼ばれ、Xは主要部 (head) と呼ばれる。 \bar{X}' と姉妹関係にある要素を指定部 (specifier), Xと姉妹関係にある要素を補部 (complement) と呼ぶ。Xは変項であり、例えばここにIを代入すると(従来のSに相当する)屈折句 (Inflectional Phrase, IP) の構造が、Vを代入すると動詞句 (Verb Phrase, VP) の構造が、Nを代入すると名詞句 (Noun Phrase, NP) の構造が得られる。印刷の都合上、 \bar{X} と \bar{X}' は X'' , X' と標記されることが一般的である。

補部は句を構成する上で義務的な要素であり、付加的な要素である付加部 (adjunct) と区別される。付加部は X' あるいは XP と結合する要素で、範疇を変えない。例えば、動詞句 read the book twice では、the bookが補部であり twice が付加部である。この動詞句は(2a)あるいは(2b)の構造を持つ。



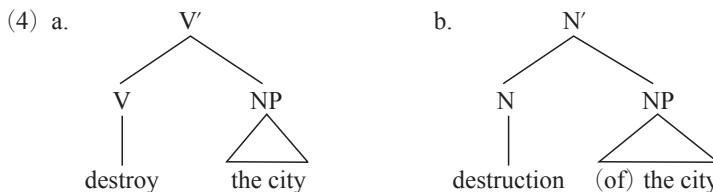
標準理論 (standard theory) では、D構造の句構造は(3)のような句構造規則 (phrase structure rule) によって形成されていた。

- (3) a. $S \rightarrow NP\ Aux\ VP$
 b. $VP \rightarrow V\ NP$
 c. $NP \rightarrow Det\ N$

しかし、句構造規則(3)による句構造の分析では、すべての句が主要部を持つという**内心構造 (endocentric structure)**の特性を説明できない。例えば(3a)では主要部が明らかではない。また、動詞句*destroy the city*と(派生)名詞句*destruction of the city*の平行性も捉えることができない。

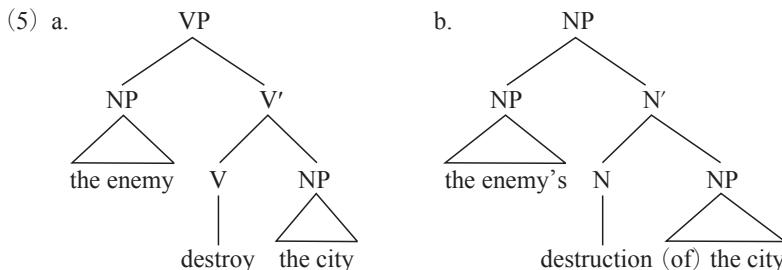
一方Xバー理論では、すべての句はXを主要部とする投射であるため、内心構造を持つことが捉えられる(その後の展開はChomsky 1994を参照)。

また、動詞句と名詞句の平行性もうまく捉えられる。Xバー理論に従うと、例えば動詞句*destroy the city*と名詞句*destruction of the city*はそれぞれ(4a, b)の構造を持つ。



(4) では動詞*destroy*と名詞*destruction*がそれぞれ主要部に位置し、*NP the city*がその補部に現れており、動詞句と名詞句が平行性を示す。

さらに、**動詞句内主語仮説 (VP-internal subject hypothesis, VISH)**(Koopman and Sportiche 1991など)を採用することにより「主語」の平行性も捉えられる。VISHは、文の主語(外項)はVP指定部に基底生成され、その後IP指定部へ移動するという仮説である。VISHを採用した場合、文*the enemy destroyed the city*は基底構造として動詞句(5a)を持ち、名詞句*the enemy's destruction of the city*との平行性が捉えられる。



(佐藤 亮輔)